

シールドメッキの高い技術を生かした製品開発 バリューチェーンの中核に位置付けられる

1935年に操業開始し83期目を迎える。漆塗りなどの伝統工芸に始まり、産業構造の変化に伴い、漆塗から塗装、メッキ、熱処理と表面処理を軸としながら事業を拡大してきた。電磁波シールドメッキ、硬質クロムメッキ、樹脂メッキ、亜鉛合金メッキなど様々なメッキ加工以外に、現在は、熱処理(浸炭焼入れ・高周波焼入れ)、メッキ治具製作も行っている。さらに金型～樹脂成型～メッキ～組立、治具製作～焼入れ～めっき～研磨など一貫生産可能な設備と技術を有している。また、表面処理に特化した研究開発部を有し、産学官連携による技術開発を進めている。

● 所在地 埼玉県越谷市越ヶ谷5丁目1番19号
● 電話/FAX 048-951-1111 / 048-993-3335
● URL <http://www.yoshinodenka.com>
● 代表者 代表取締役 吉野 寛治

● 設立 1935年
● 資本金 9,999万円
● 従業員数 207人



生産性向上

生産設備の見える化と自動化

吉野電化工業ではメッキ設備の稼働状況の見える化と生産情報のデジタル化を進めている。一部の設備の稼働状況は常時モニタリング、稼働状況や効率が一元管理されている。この情報をもとに生産カイゼンを進めている。また生産設備と検査の自動化も進めている。熱処理工程では人手で24時間稼働していたラインの無人化を実現している。手の空いた人材は新規の開発およびカイゼン業務に取組み更なる付加価値の向上を推進している。さらに、これまでは完全に人の目に依存していた製品の外観検査も、高精度なカメラや画像解析を用いて一部自動化を実現している。



メッキ加工品の自動検査機と管理モニター

業務システムの導入による高度なマニュアル化とデジタル化

業務効率の改善として、全ての業務のマニュアル化とデジタル化に取り組んでいる。具体的には顧客毎に異なる受発注処理、伝票処理などを全てマニュアル化し、共通点を洗い出し最適な業務手順を作成している。一部の顧客では伝票形式の変更や受発注手順の見直しを依頼し、製品名や番号を専用伝票などに転記するといった手間のかかっていた業務をスリム化している。また、新規業務システムの導入を進め、手動で入力していた伝票情報などを、デジタル情報で読み込み可能なシステムの構築を進めている。



システムを導入した事務所

若手と高齢者が競争しながら成長する仕組み

同社は60歳定年となっているが、本人の希望により65歳もしくは65歳以上の雇用も積極的に行っている。近年では高いスキルを持った65歳から75歳の高齢者を6人雇用し、若手技術者との交流を行いながら職人技術の継承とマニュアル化を進めている。働き方改革としては、男性の育児休暇の推進や、産休・育休からの復帰推進などに積極的に取り組んでいる。現在も2回目の育児休暇を取得中の従業員がいる。会社全体での懇親会や旅行、食堂や休憩室の整備も適宜進めており、実際に離職率の低下につながっている。



シニア従業員と若手従業員

ものづくり